

私のクリーン作戦

大洗町立南中学校 二年

えびさわ
海老澤 ひなた

私の町には、青くどこまでも広がる美しい海があります。夏には県外からも観光客が訪れ、多くの人で賑わいを見せます。私の家族は皆、この町の海が大好きです。しかし、人々が帰ると、海にはありとあらゆるところにゴミが落ちていきます。なぜ、ゴミをポイ捨てしてしまうのか。なぜ、自分が出したゴミを持ち帰ってくれないのか。私には理解ができません。「私たちの海を汚さないでほしい。」そう、怒りさえ覚えました。

中学一年生の春休み、母が海へゴミ拾いに行くことを提案しました。その時は、海をきれいにしたいという気持ちの反面、他人が出したゴミを、関係のない私が拾わなくてはならないことに納得のいかない自分もいました。しかし、実際にごみ拾いをしてみると、袋にごみがどんどん溜まっていく感覚や自分の周りがきれいになっていく感覚が気持ちよく、ごみ拾いにも積極的になっていきました。また、

ごみ拾いの最中に声を掛けてくださる、通りすがりの方々の存在も大きな力になりました。「ご苦労様。」「ありがとうございます。」そう言ってもらえると、自分が誰かの役に立てている喜びで、胸がいっぱいになりました。

そんな海で拾ったゴミには、お弁当の容器やお菓子の包装袋、空のペットボトルなど、手軽に使える分、手軽に捨てられてしまう使い捨てプラスチックが多いように感じました。

こうしたプラスチックゴミは、太陽光や紫外線、波力によつて五ミリ以下のプラスチックへと変化し、マイクロプラスチックと呼ばれるものになります。世界の海には、このマイクロプラスチックが最大五百万トン近く漂っているともいわれ、世界的な問題になっています。海洋生物がマイクロプラスチック自体と、それに付着した有害物質を摂取することによって、海鳥や人間の健康にも影響すること

が懸念されています。安全だと思って食べていた魚にも、プラスチックが混ざっていたかもしれないと考えると、とても恐ろしくなりました。

そもそも、海洋ごみはどこから来るのでしょうか。その大半は私たちが暮らす街からだそうです。ポイ捨てされたり、屋外に放置されたりすると、雨風によって河川に入り、やがて海へと流れ出てしまいます。つまり、海のプラスチックごみのほとんどは、陸からのプラスチックごみなのです。この事実を知った瞬間、海のごみとは無関係だと思っていた私にも、思い当たる経験がありました。私は夏になると、家庭菜園を行います。その時に、野菜が倒れないようにビニールひもで止めるのですが、切れ端が風で飛んで行ってしまったことがあります。急いで追いかけたが、すぐに遠くへ行ってしまったので諦めました。その時は、少しだからしょうがないと思っていまいませんでしたが、海を汚す原因を作ってしまったのだと、とても反省しています。これからは、自然に優しく耐久性のある麻ひもを使っていきたいと思います。

以前の私のように、ごみをポイ捨てしてしまう人にも「少しくらいなら。」という軽い気持ちがあるのだと思います。「自分だけなら大丈夫。」そんな気の緩みが環境を汚染してしまっているのです。

母と一緒に、海の駐車場でごみを拾っていた時、警備員

さんに「ごみ拾いですか。偉いですね。」と声を掛けられたことがあります。その時「自分の町ですから。」一言だけ答えて微笑んだ母の姿が、今でも印象に残っています。こんな風に、一人一人がごみに対する意識を持って行動していれば、ポイ捨てという行動にはつながらないはずです。

これらのごみ問題は、最近テレビなどでもよく見かけるSDGsの目標にも深く関わっています。例えば、目標十四「海の豊かさを守ろう」では、海洋汚染の防止や海洋資源の管理などを課題としており、私たちにも無関係な話ではないはずです。もう、全くの他人事では済まされないレベルにまで深刻な問題なのです。自分たちの生活を豊かにするために作り出されたプラスチックが、巡り巡って私たち人間にも悪影響を与えています。海の生き物や地球環境、そして自分たちの生活や未来を守るためにどうしていくべきなのか、一人一人が考えていく必要があると思います。

しかしながら、SDGsは規模が大きすぎて私たちには遠い世界に感じられてしまうかもしれません。ですが、自分の町や地域をきれいにすることなら誰にだってできるはずです。身の周りのことができなくて世界規模のことは実現しません。だから私はまず、目の前にある小さな課題に目を向けて行動していきます。そして、全ての生き物が幸せに暮らせる未来を創っていききたいです。